

いちご育苗期の暑熱対策を実施しましょう！

地球温暖化に伴った気候変動の影響で平均気温の上昇や暴風雨の激化などが起こっています。いちごにおいては、特に育苗時期は夏の高温期にあたるため、その影響が大きいと考えられます。安定生産のためには病虫害のない良質な苗が不可欠ですので下記の対策を実施しましょう！

【8月の平均気温の推移（観測地点「小山」の5カ年平均）】

1978～1982年	1988～1992年	1998～2002年	2008～2012年	2018～2022年
26.6℃	27.0℃	27.7℃	27.9℃	28.1℃

(1) 温度の把握

育苗期もハウスや夜冷庫にモニタリング装置を設置し気温の推移を確認する。

(2) 遮光

遮光率15～30%程度の被覆資材や塗布材を利用してハウス内温度を下げる。

(3) 換気

ハウスサイドだけでなく、肩換気や妻面の換気により熱気を逃がす。循環扇や換気扇を活用して外気を積極的に取り込む。

(4) かん水

暑さにより1回のかん水では間に合わない場合、日中のかん水を葉水程度に実施する。日中のかん水不足がないかよく確認する。

(5) 施肥

地温（培土温）の上昇により肥料の溶出が早まるので、生育を見ながら後半は適宜液肥等で補う。

(6) 炭疽病の防除徹底

薬剤散布を徹底するとともに、株元かん水や底面給水などのかん水方法の改善や被害株の早期発見・処分を行う。

